

第 7 節 目標値の試算方法等について

1 3 R 指標

(1) ごみの排出量（市に排出されるごみ及び資源物の総量）

推計は、次の計算式に基づき算出しています。

ごみの排出量＝減量・資源化策を推進しなかった場合の発生量－減量策を実施した場合の削減量

＊対象となる減量策は、市にごみの排出がなされない施策を対象としています。

（資源化策は、一旦市に排出されるので対象となりません。）

具体的には次のとおりです。

$$\cdot 58,134 \text{ トン} \textcircled{1} - (2,253 \text{ トン} \textcircled{2} + 393 \text{ トン} \textcircled{3}) = 55,488 \text{ トン}$$

- ① ・平成 29 年度の実績値による発生原単位に人口を乗じて算出した令和 7 年度の減量・資源化策を推進しなかった場合の発生量です。
・平成 29 年度の実績値で算出するのは、2 市 1 町ごみ処理広域化実施計画と数値を整合させるためであります。
- ② ・第 5 節で示した（施策 1－2－(4)）「事業者から排出される生ごみ資源化の促進」による令和 7 年度削減量です。
・削減量は、前回の審議会資料 2－4 の⑥の数値です。
- ③ ・第 5 節で示した（施策 2－2－(2)）「事業者・収集運搬事業者に対する適正排出の指導」による令和 7 年度削減量です。
・削減量は、前回の審議会資料 2－4 の⑧の数値です。

・課題

平成 29 年度の実績値による発生原単位を活用して推計しているため、新型コロナウイルスの影響を加味していません。令和 2 年度のごみの排出量は、家庭系ごみが増加（約 500 トン）、事業系ごみが減少（約 1000 トン）、資源物が増加（約 60 トン）しております。

今後、この状況が一過性なのか継続するのか、どの程度の影響なのかを判断するにはもう少し時間が必要と考えており、今後の状況により影響を加味する必要がある場合は、目標値の見直しを行うため＊ 1 を記述いたしました。

(2) 資源化率

推計は、資源化量をごみの排出量で除して算出しています。

しかし、環境省の資源化の考え方は、固形燃料化を資源化率に入れる場合と入れない場合の 2 種類あり、それぞれ公表しています。第 3 次一般廃棄物

処理基本計画の資源化率は、固形燃料化を入れない資源化率を採用しています。

今回、新たな資源化策として家庭系生ごみ、紙おむつ、事業系混合ごみの処理委託を考えておりますが、紙おむつ及び事業系混合ごみについては、現時点で詳細な資源化手法が確定しておらず、固形燃料化がどの程度処理されるかなど判明しないため、推計が難しい状況です。

このため、*2で記述したとおり、今回は家庭系生ごみだけを資源化することで推計を行い、紙おむつ等は処理手法が確定次第、見直しをしたいと考えております。

具体的には次のとおりです。

$$\cdot (28,821 \text{ トン} \textcircled{1} + 988 \text{ トン} \textcircled{2}) \div 55,488 \text{ トン} = 53.72\%$$

- ① ・平成29年度の実績値による発生原単位に人口を乗じて算出した令和7年度資源化量です。
- ② ・新たな資源化策として第5節で示した（施策1-4-(1)）「生ごみの資源化」による令和7年度削減量です。
 - ・削減量は、前回の審議会資料2-4の②の数値です。

2 環境負荷の指標

推計は、平成29年3月環境省から示された「温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン計算式」より算出しています

推計の計算式

$$\begin{aligned} \text{CO}_2 \text{ 排出量 (t-CO}_2\text{)} &= \textcircled{1} \text{ 焼却処理量 (t)} \times (1 - \textcircled{2} \text{ 水分率}) \times \textcircled{3} \text{ プラスチック類比率} \times 2.77 \\ &\quad (\text{廃プラスチックの焼却に伴う排出}) \\ &\quad + \textcircled{1} \text{ 焼却処理量 (t)} \times \text{全国平均合成繊維比率 (0.028)} \times 2.29 \\ &\quad (\text{合成繊維の焼却に伴う排出}) \end{aligned}$$

(1) 平成30年度

$$11,812 \text{ t-CO}_2 = \underline{\underline{\textcircled{1} 29,992 \text{ t} (\textcircled{\times} 1) \times (1 - \textcircled{2} 0.47 (\textcircled{\times} 2)) \times \textcircled{3} 0.2246 (\textcircled{\times} 3) \times 2.77 + \textcircled{1} 29,992 \text{ t} (\textcircled{\times} 1) \times 0.028 \times 2.29}}$$

※1 平成30年度焼却量

※2 平成30年度ごみ質検査結果（名越クリーンセンター第1回、第2回平均）水分量

※3 平成30年度ごみ質検査結果（名越クリーンセンター第1回、第2回平均）合成樹脂類比率

(2) 令和7年度

$$6,028 \text{ t-CO}_2 = \underline{\underline{\textcircled{1} 15,522 \text{ t} (\textcircled{\times} 1) \times (1 - \textcircled{2} 0.4541 (\textcircled{\times} 2)) \times \textcircled{3} 0.2144 (\textcircled{\times} 3) \times 2.77 + \textcircled{1} 15,522 \text{ t} (\textcircled{\times} 1) \times 0.028 \times 2.29}}$$

※1 令和7年度焼却量

※2 令和2年度ごみ質検査結果（名越クリーンセンター第1回、第2回平均）水分量

※3 令和2年度ごみ質検査結果（名越クリーンセンター第1回、第2回平均）合成樹脂類比率